

# 県立大 Arch

Vol.74  
Spring

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちが、県大生の県大生による県大生の今を伝えます。バ(\*'▽')ン

## ケンダイ★広報局 学生★企画

今回のテーマ「リア活ちゃんねる」

今回は大学生のリアルな生活略してリア活ちゃんねる! ということでバイトとサークルの2つに焦点をあてて、二人の大学生の一日をクローズアップ! 大学生がどんな一日を過ごしているのか教えちゃいます♪

チームワークが、成長のキーワード!!

プロジェクト体験で学生の就業力をアップ!



てっちゃん  
ソフトウェア情報学部

### 実家暮らし・バイト中心

Q. 朝の支度はどのくらいかかる?

A. 10分くらい! 電車通学なので、電車に乗り遅れないかの戦いです。

Q. おすすめの講義は? 空いた時間は何してる?

A. 人間と職業という講義です。空いた時間には課題をしたり趣味を満喫したりしています。

Q. 家賃はどのくらい?

A. 実家暮らしなので0円!

Q. アルバイトは何してる?

A. 某家具屋です。メジャーやマスキングテープを使うので、バイトがある日はバッグに入ってます! 稼いだお

金は服を買ったり、食費に使ってます。

Q. アルバイトのやりがいは?

A. バイトで仕事ができるようになったり、お客様に喜んでもらえること!



### 寮暮らし・サークル中心

じゃわ 総合政策学部

Q. 朝の支度はどのくらいかかる?

A. 60分! そして大学までは50分かかります。。。また、寮では朝に当番制で「食当」というものがあり、朝ごはんなどの準備をしています!

Q. おすすめの講義は? 空いた時間は何してる?

A. 統計学I(データの分析などで必需)、地域社会論(先生のお話がためになる)です! その他は課題、サークル、友達とおしゃべりしています♪

Q. 家賃は?

A. 寮生活なので寮費3万円です!

Q. サークルは何してる? 印象に残ってることは?

A. アカペラサークルに所属しています! 何度も何度も練習して、やっと音が合った瞬間がとても嬉しいです!

Q. サークルのやりがいは?

A. 発表の時に観ている人が楽しそうに聞いてくれることです。



岩手県立大学 企画室  
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市巢子152-52 TEL.019-694-2005 FAX.019-694-2001  
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/ [e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

- [看護学部] [社会福祉学部] [ソフトウェア情報学部] [総合政策学部] [盛岡短期大学部] [宮古短期大学部]
- [看護学研究科] [社会福祉学研究科] [ソフトウェア情報学研究科] [総合政策研究科]

発行:2018年3月31日

Copyright © 2018 Iwate Prefectural University All Right Reserved.



# プロジェクト体験で学生の就業力をアップ!

「被災した人々の力になりたい」という学生たちの熱き思いへの支援を起点とし、学生発の様々な社会貢献活動を下支えする岩手県立大学独自の就業力育成支援事業『Eプロジェクト』。今年度で7回目となるEプロは、これまで39のプロジェクトを支援してきた。社会貢献や地域振興に役立つ学生たちのプロジェクトをサポートしながら、個々の力を鍛え、実社会で必要となる「就業力」を育てていく取組をご紹介します。

## 学生自らが企画・計画・実行、失敗も成功も成長につながる!

学生時代であれば、教師の指示を待っては良かったかもしれないが、社会人ともなるとそうはいかない。仕事で求められるのは、何よりも自主性と積極性。受け身では信頼は勝ち取れないし、責任ある仕事も任せられない。自ら企画を立案し、それを成功に導く実行力が必要とされる。

そこで岩手県立大学では、実社会で必要な就業力を高めることを目的として、平成23年度から『Eプロジェクト(略称Eプロ)支援制度』をスタートした。これは、学年や学部の垣根を越えた複数の学生メンバーが、企画・立案から実現までの一連のプロセスを体験するプロジェクトで、1グループに30万円程度の活動費が補助される。活動にかかるスケジュール管理から組織運営、経費管理など、すべてを学生たちの手で行っていくのだ。

「学生は身近な仲間うちで完結する場合がありますが、それでは世界は広がりません。本学には4年制4学部に加え、盛岡・宮古の2短大部があります。仕事でも多職種連携があるように、学生のうちから他学部の学生と協働してプロジェクトを実行することで、コミュニケーション能力や協調性を育ん

だり、自分とは異なる多様な考えや価値観を知ることができ、成長につながっていきます」と、似鳥徹学生支援本部長は説明する。

それぞれのプロジェクトを審査で通すため、大学サイドにプレゼンして大職員と交渉することも、大事な経験であり社会勉強。一度のプレゼンで審査が通るグループはほとんどありません。どこに不備があるのか、教職員が厳しくフィードバックをして、学生に再考を促すことで、企画の甘さを反省し、より良い形にブラッシュアップしていきます」と、似鳥本部長。



似鳥 徹  
学生支援本部長

こうした企画を通す苦労や交渉、多様な人間との触れ合い、個人では成し得ないことへの挑戦、そして現場で吸収する知識や貴重な体験から、学生たちは大きく成長するという。

## 学生ならではの柔軟な発想で社会や地域に役立つものを

平成23年度から始まったEプロも今年度で7年目となり、これまで39プロジェクトの支援を行ってきた。スタート



創立20周年に寄せるメッセージ



平成30年6月、岩手県立大学は創立20周年を迎える。「地域の大学」として地域に根ざした教育・研究活動を実践し、これまで輩出した卒業生は約1万2000人(平成29年4月現在)。記念すべき年を迎え、大学へ寄せる想い、これから期待することなどを教員たちに聞いた。



大学の歴史を伝える、創刊当時の広報誌。

宮古短期大学部経営情報学科  
鎌田 真人 准教授



前身の岩手県立宮古短期大学の開学時から務めていますが、当時は周囲になにもなく、ポツンと大学が建っているような状況でした。あれから28年、今では住宅が立ち並び、桜も見事な花を咲かせるようになりましたが、変わらないのは1学年100名という顔の見える学生数と、教員、職員と学生との距離感。授業や進路、生活のことなどを気軽に相談できるオフィスパワーという時間を毎週設けていますし、一人ひとりの学生を教職員が見守るアットホームな雰囲気は、小さな大学だからこそこのメリットです。また、2年間という学びの時間は、改めて今後の人生を考えられる猶予の時間。就職や4年制大学への編入など、大学での経験を加味しながら柔軟に進路を選べることも短期大学部の良さではないでしょうか。学生に望むのは、本と新聞を読むこと。積極的に知識を広め、深めて、見識や自律・自立できる力を身につけてほしいです。

岩手県立大学高等教育推進センター  
井上 一彦 講師



幼い頃から野球一筋で、高校や大学の教員を務めながら、野球部の指導に携わってきました。好きなことに夢中で取り組む子どもたちは、失敗や挫折を乗り越えながら成長するため、打たれ強い。ここが正念場という時は想像を超えた発想や大胆な行動に出ることもあるものです。一方、岩手県立大学の学生は、総体的に真面目でおとなしい。それは長所でもあるのですが、壁にぶつかり挫折した時に、這い上がる力が弱く感じています。赴任して7年目になりますが、体育の授業を通して育てたいのは、人間力。県立大学の体育は4学部混成の授業ですので、違う学部の学生とチームを組みます。その中で協調性や積極性を身につけたり、苦手なことを克服する喜びを感じてほしいと思っています。規定の枠に収まることを良しとせず、世界に羽ばたくような人材を育てていけたらと考えています。

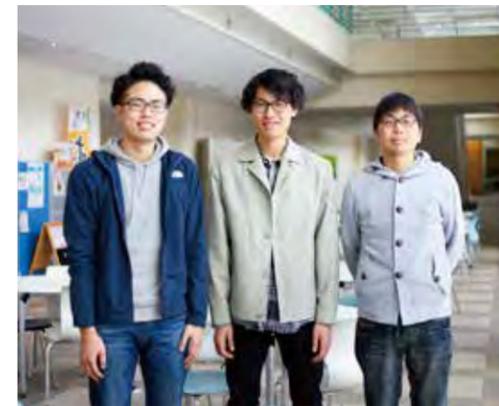
20th anniversary messages



当時は東日本大震災の発生直後だったこともあり、復興支援やボランティア活動に関するプロジェクトが多かったが、最近ではまちづくり、高齢者支援、学びの伴走、映画上映など、様々な社会貢献や地域活性化の取り組みが広がっている。平成29年度に採択となり、完遂されたプロジェクトは3つ。視覚障がい者向けに学内の障壁や改善点を調査する「学内バリアフリー調査プロジェクト」、女性向けの地域情報発信メディアアプリを開発する「Hashigoプロジェクト」、沿岸部の復興現状を冊子にまとめて発信する「むすびプロジェクト」だ。企画を実行して終わりではなく、学生たちは一年間の活動を振り返り、その成果を発表。プロジェクトを支援した大学サイドに評価を受け、浮き彫りになった課題の改善に取り組み、さらに次のステップへ。こうした一連のプロセスを経験することで、就業力を身につけていくのだ。

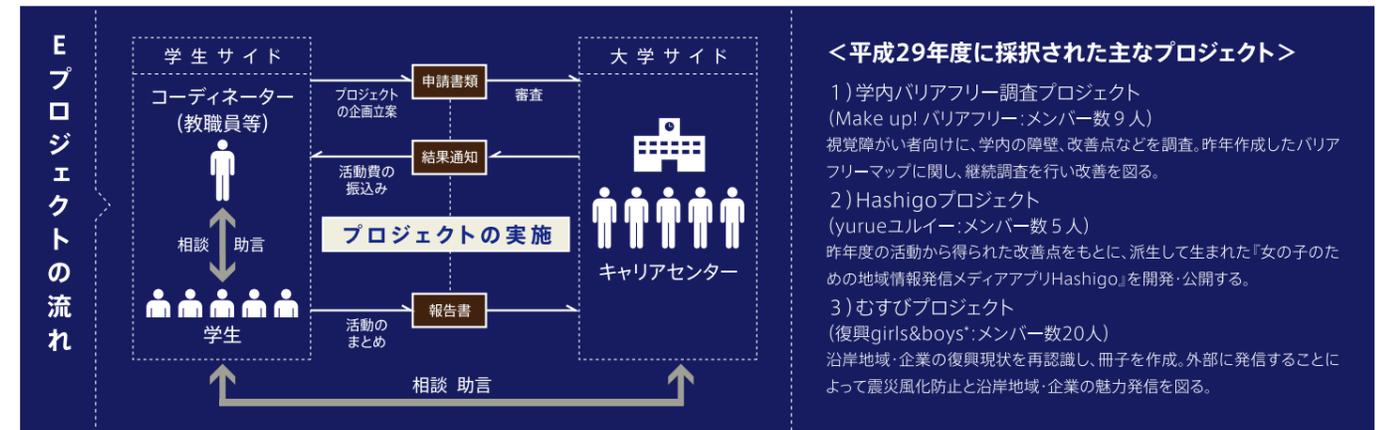
チームでものづくりに挑む  
難しさや甲斐を実感

今回のEプロが2回目の採択となったyurue(ユルイ)は、ソフトウェア情報学部と総合政策学部の混成チーム。今年度は新たな旅行体験が生まれるアプリの開発に取り組んだ。



左から今野遼太さん、下村一将さん、功刀剛さん。

「先生が指導してくれる授業とは違い、考えるのもつくるのも自分たち。軸を見失い迷走したこともあったのですが、チームでものづくりをする良さを実感できたことが大きな収穫です」と話すのは、功刀剛さん(ソフトウェア情報学部4年)と下村一将さん(同3年)。未経験の技術にもチャレンジしながら、互いの考えを理解し合い意見をまとめていくことに苦労したという。「メンバーの力を引き出しながら、新たなものを生み出していくのは本当に難しい。リーダーとして実感した反省点を、今後につなげていきたいです」と、今野遼太さん(同4年)。成功体験だけでなく、失敗や反省も糧にする。そこにEプロの大きな意義がある。



<平成29年度に採択された主なプロジェクト>

- 1) 学内バリアフリー調査プロジェクト (Make up! バリアフリー:メンバー数9人) 視覚障がい者向けに、学内の障壁、改善点などを調査。昨年作成したバリアフリーマップに関し、継続調査を行い改善を図る。
- 2) Hashigoプロジェクト (yurueユルイ:メンバー数5人) 昨年度の活動から得られた改善点をもとに、派生して生まれた「女の子のための地域情報発信メディアアプリHashigo」を開発・公開する。
- 3) むすびプロジェクト (復興girls&boys\*:メンバー数20人) 沿岸地域・企業の復興現状を再認識し、冊子を作成。外部に発信することによって震災風化防止と沿岸地域・企業の魅力発信を図る。

未来に向かって、新たなアクションを起こす学生がいます。地域の先を見据え、活躍している卒業生がいます。彼らが何を思い、どんな活動をしているのか。それぞれの扉を開けてみましょう。

銀行員として地域の人々に寄り添う。いずれは復興を支える仕事を。



卒業生

岩手銀行宮古支店

### 佐々木 理沙

1994年、岩手県宮古市出身。岩手県立宮古商業高校、宮古短期大学部卒業。学生時代は、ゼミ仲間とトドヶ崎に行ったのが一番の思い出。休日には買い物やドライブでリフレッシュ。年に数回、旅行を兼ねてライブに行くのが楽しみとか。

小さな頃から銀行員に憧れていたのですが、その思いを強くしたのは震災の時。停電の中、手作業で対応しながら地域の人々を支えている姿を見て、私も銀行員になって宮古のために働きたいと思ったんです。

宮古短期大学部では経営・会計分野を専攻。簿記の仕組みを学んだり、資格取得に励んだことが、今の仕事にも役立っています。また、先生と学生の距離が近く、何でも話せるアットホームな雰囲気も良かったですね。

現在は、岩手銀行宮古支店で窓口業務を担当。お客様の大事なお金をお預かりするため常に緊張と責任が伴いますが、正確な処理と笑顔での対応を心がけています。こちらの支店に来て数ヶ月ですのでまだ顔と名前を覚えてもらっていませんが、お客様に「ありがとう」と言ってもらえるのが、何よりうれしいですし、励みになります。

いずれは融資畑に行つて、まちの復興に携わるのが私の夢。勉強と仕事の両立に励みながら、お客様に信頼される銀行員になるのが目標です。



窓口では笑顔を絶やさず、「こちらから笑いかけるとお客様も笑顔になってくれます」と佐々木さん。



「災害看護」と出会い、道を見つけた。春からは現場で学び、もっと成長したい。

在学生

看護学部4年

### 佐藤 智行

1995年、岩手県陸前高田市出身。岩手県立盛岡第三高校卒業。趣味は音楽(特にヒップホップ)とドライブ。他愛のない話をしながらドライブしたり、美味しい店に出かけたり、友人たちと過ごした時間が4年間の何よりの思い出。

中学3年生の時に被災し、家族で盛岡市に転居しました。高校で「看護師になる」と決意。「家族のそばに」という思いから、岩手県立大学を選びました。

3年次で学んだ必修科目で「災害看護論」に出会い「これが進むべき道」と感じました。そんな時、先生のすすめもあって米国で災害看護を学べる研修プログラムに参加。2週間渡米し、帰国後は友人たちに手伝ってもらいながら、その経験を還元すべく母校の後輩たちに講演。自分の未熟さに向き合い成長できたこと、また「人とのつながり」の大切さも実感するなど、かけがえのない経験をさせてもらいました。

4月からは東京の災害拠点病院に勤務。将来はDMAT(災害派遣医療チーム)で経験を積みたいなど、夢を膨らませています。

もし他の大学に進んでいたら、「災害看護」を学ぶ機会も、研修に参加するチャンスもきつと巡ってこなかった。今の自分を作ってくれた県立大学で学ぶことができ、本当によかったと思っています。



母校・盛岡第三高校で講師を務めた、総合学習の授業のようす。

## [ウィンターセッション概要]

[学部別プログラム] 上段:学部・下段講義テーマ

### 看護学部

みんなの健康

### 社会福祉学部

社会福祉と私たちの生活

### ソフトウェア情報学部

秘密を分け合おう～情報セキュリティと秘密分散共有

### 総合政策学部

総合政策って何だろう?

### 盛岡短期大学部

「望ましい食事」と調理学、食品学との関連

### 宮古短期大学部

現代社会の仕組みを理解する経営情報学の入り口

[大学別受講者数]



## [受講生メッセージ]

オープンキャンパスにも参加したので、もともと県立大学には好印象を抱いています。今回のウィンターセッションは高校の先生に勧められて受講しましたが、大学での講義を聞いて、社会福祉に対する考え方が変わりました。体が不自由な人への支援にしても、できないことに目を向けるのではなく、できることを伸ばしていくことが大事で、障がい者も高齢者も、すべての人の幸せを考えるのが社会福祉だと学びました。高校の座学とは違って、長机にスクリーンが設置されているのも、新鮮でした。



滝田 真唯さん  
岩手県立大船渡高校2年

参加した高校生たちは、大学での学びに興味津々。体験型の演習を組み込む学部もあり、熱心に取り組んでいた。



## 本格的な講義体験を通して 大学の学びの楽しさに触れる

冬休み期間を利用して、高校生が大学の講義を体験する「高大連携ウィンターセッション」。これは岩手県教育委員会、が県内5大学と協力し、平成15年度から行っている事業で、高校生の学び意欲や関心を喚起し、大学への進路意識を高めることを目的として開催している。

最近では、オープンキャンパスや大学祭など、高校生が大学について理解を深める場も増えてきたが、本格的な講義が受けられる機会はそう多くはない。中学校や高校とは違う、大学ならではの学びとは何か。また、どんな分野なら興味・関心が持てるのか。進学を希望する高校生たちは、1・2年生の早い段階



# 大学の講義はおもしろい！ 高校生に学びのトビラを開く

昨年の12月25日から27日までの3日間、岩手県立大学では県内の高校生を迎え入れ、「高大連携ウィンターセッション」を開催した。大学への理解を深め、進路意識を高めることを目的としたこの事業は、今年度で15回目。昨年度より多い335名の高校生が参加し、各学部の魅力あふれる講義に耳を傾けた。

からウィンターセッションに参加し、進路選択に役立てるのだ。

一方、大学側にとっても、高校生に大学を知ってもらう絶好の機会。大学での学びや研究の楽しさ、研究者の実際の姿に触れてもらうことによって、大学への興味・関心を高めることができる。他大学とは違う魅力をアピールできるよう、各学部それぞれに工夫を凝らした講義を行っている。

## 自ら考えることの大切さを伝え 生徒たちの可能性を拓く

では、実際にどんな講義が行われているのだろうか。例えば社会福祉学部では、全体オリエンテーションのあと、2日間で5つの講義を実施。高校生自身や身近な人たちの生活と関連づけなが

ら、社会福祉の意義やあり方、様々な分野の講義に加え、体験的に学べる演習も加えるなど、多彩なプログラムが組まれている。

特徴的なのは、すべての講義で受講生への問いかけや質疑応答の時間を設けていること。自分ならどんな点に疑問を抱き、どういった意見を持つのか。大学教育の基本ともいえる、自ら考えることの大切さを気づかせることが狙いだ。

県立大学ではこの他にも高校で出張講義を行ったり、盛岡商業高校等と協定を結びプログラミング授業の支援を行うなど、高校と連携しながら生徒の学びの意欲を高める活動を行っている。早い段階から大学の専門教育に触れることで、学問の楽しさを伝え、将来の可能性を広げることがサポートしている。

ウィンターセッションでは、各学部に分かれての講義のほかに、大学全体のことを紹介する全体講義や、学生によるキャンパスライフの紹介も行われた。



豊かなロケーションが生む名場面の数々!!

# 県立大学滝沢キャンパスが ガンライザーのロケ地に!

**岩手山**

**学生ホール前のテーブルは憩いのスペース。でも、演技は深刻な話!**

**メディアセンターの中でも撮影。**

**ご当地ヒーローガンライザー零**

**学食での撮影。ガンライザー零の好物はナポリタン!**

**メディアセンターに向かう県大モールの階段で。ガンライザー零も学生だった?**

**広々とした県大モールの絵になる場所がいっぱい。**

**学生や教員、大学職員もエキストラとして参加した。**

**講堂での撮影シーン。**

聖地巡礼をしながら  
県立大学の魅力に触れるのダ!!

学生ホール棟  
メディアセンターA棟  
メディアセンターB棟  
ソフトウェア情報学部B棟  
ソフトウェア情報学部A棟  
総合政策学部棟  
講堂  
本部棟  
バス待合所  
アーチ  
正門  
短期大学部棟  
看護学部棟  
社会福祉学部棟  
渡り廊下  
ドイツウヒの丘  
アースワーク

陸上競技場  
西門  
体育棟

テレビ岩手が製作する『鉄神ガンライザー零(ゼロ)』は、子どもから大人まで多くのファンに人気のヒーロー番組。昨年9月、岩手県立大学をメインロケ地として、キャンパス内で番組の撮影が行われた。学生ホールや学食、メディアセンター、講堂など、キャンパスの各所を舞台に撮影が進み、多くの学生たちがエキストラとして出演した。番組の放映はすでに終了しているが、DVDも出ているのでチェックしてみよう。キャンパスの新たな魅力が発見できるかもしれない。

※写真提供: テレビ岩手

### [出演者からのメッセージ]

初めて岩手県立大学を訪れましたが、キャンパスも広々として緑もきれい、とても素敵な大学だと思いました(広すぎて迷子になりましたけど…笑)。ゆっくり校内を見ることはできませんでしたが、看護についての勉強をしてみたいと思っていたので看護実習室には興味津々。撮影の合間にいただいた学食のランチもおいしくて、次に来る時は全メニューを制覇してみたいです。今回のロケでは学生の皆さんにも協力してもらいましたが、学生生活を思いっきり楽しんで、夢に向かって頑張ってくださいね!

鉄神ガンライザー零 出演者 石神桜花役 **志田 友美さん**



**ストリートダンスサークル Nino**  
平成16年創部。部員数は約70名。練習は週2回(月曜日・木曜日)、18:30~21:00。活動場所は、体育棟サブアリーナまたはブル前スペース。学内イベントを中心に、東北学生ダンス連盟が主催するイベントなどにも参加。



ダンスを通して多くの人に、表現の楽しさを伝えていきたい。アクロバティックな動きで魅せるブレイクダンス。キレのある動きで踊るロックダンス。他にもヒップホップやハウスなど様々なダンスを楽しむ学生たちが集うのが、ストリートダンスサークル『Nino』だ。複雑な動きを軽やかにこなす様子を見ると、経験者が多いように思うが部員のほとんどが初心者、イベントに向けて練習を重ねていくうちに、徐々に上達するのだという。大学祭を中心とした学内イベントのステージではジャンル別に多彩なダンスを披露するが、年に1回開催される東北学生ダンス連盟主催の公演はちよつと違う。ジャンルを超えた一つのチームとして、様々なダンススタイルを組み合わせたショーケースを発表するのだ。「いろんなジャンルの踊りが刺激になりますし、みんなで一つの作品を作り上げていく面白さと達成感があります」と話すのは、代表の阿部快星さん(ソフトウェア情報学部3年)。

昨年からの地域との関わりを深め、元の祭りに参加したり、学童クラブでダンスを教える活動にも力を入れている『Nino』。ダンスで人々を喜ばせ、少しでも興味を持ってくれる子どもたちが増えてくれることを願っている。

# 保育支援



企業とシステムの確認をする様子

社会福祉学部 准教授

井上 孝之

宮城県角田市出身。東北大学大学院修了(教育学)。幼稚園・小・中・高・支援学校の教員免許を持つ。宮城教育大学附属支援学校、附属幼稚園など15年の教諭経験を経て、2004年岩手県立大学着任。2015年には保育士資格も取得した。岩手の好きなところは、温泉が近くにあるところ。野菜がおいしいところ。



## ICTで、煩雑な報告業務を効率化 もっと、子どもと向き合う保育を

保育に対するニーズの多様化や制度の複雑化により、保育所や認定こども園といった保育施設では、登降園の記録から料金計算、日誌作成、自治体への実績報告など煩雑な事務作業が負担になっている。それが「保育の質の低下」にもつながりかねないとして、国では保育施設のICT化を推奨してきた。しかし、現場のICTに対する理解やスキルが十分でないなどの理由から、なかなか導入が進まないのが現状だ。

さらに自治体に提出する報告書も、手書きだったり、パソコンを使ったりと施設によってさまざままで、それを集約する自治体職員の負担も大きかった。こうした課題を解決するため、井上孝之先生の研究チームは岩手県保健福祉部や地元IT企業と連携し、独自のシステムを開発。産学連携で「保育施設と自治体を結ぶICTの実証的研究」を行なっている。

「保育施設向けの業務支援システムはあっても、さらに自治体とも繋がっているものはまだ例がありません。つまり全国初です」と井上先生。2017年から10施設を対象に実証実験を開始。今年度は中間評価をもとに修正を加え、さらに検証を重ねていく予定だ。

ICTのCはコミュニケーション。つまり、人と人をつなぐものでなくては。そう話す井上先生が、研究者として大事にしているモットーは「人の役に立つ研究をすること」。煩雑な事務作業の負担を減らし、そのぶん子どもと向き合える時間をつくるこのシステムには「研究で人を幸せにしたい」という井上先生の思いも込められている。

## ソフトウェアで、外国人観光客に 岩手の魅力をナビゲート

「ソフトウェアとは、人間の『こうしたい』という思いに寄り添い、サポートするためのもの」。そう話す佐々木淳先生は「ソフトウェアで集約できる情報をどう生かすか」という視点で、さまざまな研究に取り組んでいる。

そのひとつが「観光情報システム」だ。2013年から3年にわたり行った研究では、雫石町にある住宅付農地への定住促進を目的に、ウェブ広告をクリックした人の属性(居住地、年齢、性別など)を分析。集約した情報をもとに効果的な情報発信の方法を考察した。これらの研究方法を応用しながら、現在は外国人旅行者向けの情報システムの構築を手がけている。

「例えば、岩手を訪れた外国人がSNSにどんな写真を投稿しているのかを分析してみると、中国の人は桜、オーストラリアの人はスキー、というように、国籍や年齢などの属性によって興味や嗜好が違ってくるのがわかります。なぜここが?という意外な場所が人気だったりして、潜在的な観光資源の発掘にもつながりますね」。

外国人観光客も個人旅行が主流になりつつある今、「それぞれの行きたいところへ、ストレスなくアクセスできるソフトウェアを作りたい」と佐々木先生。まずは、時刻表と地理データ、観光情報を結ぶ『時空間データベース』を構築したいと考えている。

「観光情報に限らず、医療福祉、生活支援などあらゆる分野に応用できるのがソフトウェア。そのためには、いろんなことに興味を持って、視野を広げることが大事だと考えます。そういう意味でも、専門家よりジェネラリストと呼ばれるたいな、と思っています」。

ソフトウェア情報学部 教授

佐々木 淳

岩手県北上市出身。1981年に岩手大学大学院工学研究科を卒業後、日本電信電話公社(現NTT)に就職。1993年、光ネットワークの研究により東北大学から工学博士を取得。1998年岩手県立大学ソフトウェア情報学部に着任、現在に至る。趣味はギター。バンドに所属し、休日にはライブ活動なども楽しんでいる。



# 観光支援

## 岩手県立大学未来創造基金

皆さまからの多くのご厚意とご協力を  
ありがとうございます。

大学の教育研究活動をさらに充実させていくための財源として平成28年度に創設された「岩手県立大学未来創造基金」に平成30年2月28日現在で145件、約1,290万円もの寄附が寄せられています。

創立20周年に向けて、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

[基金のお問い合わせ先]

岩手県立大学総務室(管財契約グループ) TEL.019-694-2032 FAX.019-694-2001

[お申込み方法]

本学ホームページ、書面、電話、FAX又は本学所定の振込取扱票にてお申込み・振込ください。



# KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースや  
イベントなど、  
旬のトピックスをご紹介します。



## ミライトークカフェ

岩手県立大学の卒業生と在校生が学生時代や将来についてフリートークするカフェスタイルイベント『ミライトークカフェ』を学生食堂で開催しました。当日は30名近くの卒業生の方々がお越しくださいました。将来について考えるきっかけの場となって欲しいとの卒業生の方々の想いから、今年で7回目の開催となります。

## 人事情報

### [新任役員等](平成30年4月1日付け)

副学長 企画担当	狩野 徹
本部長 研究・地域連携本部	村田 嘉利
本部長 企画本部	狩野 徹
学部長 社会福祉学部	桐田 隆博
学部長 宮古短期大学部	松田 淳
高等教育推進センター長	姜 奉植

### [教員の異動等]

#### 退職(平成30年3月31日付け)

看護学部 准教授	小澤 尚子
看護学部 助教	後藤 仁子
総合政策学部 教授	齋藤 俊明
総合政策学部 教授	平塚 明
総合政策学部 教授	金子与止男
総合政策学部 教授	西出 順郎
総合政策学部 教授	田島 平伸
盛岡短期大学部 教授	千葉 啓子
盛岡短期大学部 講師	小川 春美
宮古短期大学部 講師	中川 仁美
宮古短期大学部 助手	栗澤 朱美
高等教育推進センター 教授	佐藤 智子

#### 採用(平成30年4月1日付け)

看護学部 准教授	細川 舞
看護学部 講師	谷地和加子
社会福祉学部 講師	伊藤 隆博
総合政策学部 講師	鈴木 伸生
盛岡短期大学部 准教授	諸岡みどり
盛岡短期大学部 講師	相馬 優樹
高等教育推進センター 准教授	高瀬 和実
高等教育推進センター 准教授	渡部 芳栄

## 編集後記

今回の号は、構成・デザインをリニューアルした73号(9月発行)に続く発行です。その間、Arch Mini(ウェブ版の広報誌)や、リニューアルした大学公式ウェブサイトを開発させていただきました。ぜひそちらもご覧下さい。広報誌発行にあたり、毎月多くの方々にご協力をいただいております。時には、様々な事情やタイミングにより、ご紹介できないことや方々もいらっしゃると思いますが、いつか何らかの形で伝えてきたらと思います。本誌がお手元に届け始めている頃は春でしょうか、これから始まる皆さんの日々が、充実されますように。



## 平成29年度学長奨励賞授与式

学長奨励賞授与式を行いました。学業や研究活動、課外活動などにおいて成果を上げた学生団体や個人に贈られるものです。鈴木学長からは、『みなさんが受賞した取組は、人工知能には成せませんね』とのお話がありました。授与式後の懇談会では、受賞された方々から取組について紹介いただきました。

### 看護学部

「いわて心臓病の子どもを守る会」ボランティア活動参加学生

「いわて心臓病の子どもを守る会」の事務局から依頼を受け、定期総会や研修会の託児ボランティアや、療育キャンプへの参加に15年程度継続している。

「TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム2017」参加学生

「TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム2017」に選出され、事前セミナー、米国スタディツアー、事後セミナーへ参加し、報告会及び各自で高校生などに対し災害普及活動を行った。

### 社会福祉学部

日山 佳那子

平成28年8月に盛岡ミスさんさとして選ばれ、海外・全国を回ってPRや震災復興の活動を行ってきた。

菅野 春華

「NHK障害福祉賞」の優秀賞を受賞。

### ソフトウェア情報学部

甲田 亮太・古川 瀬知・八藤後 栄央

第79回情報処理学会全国大会で学生奨励賞を受賞。

### ソフトウェア情報学研究科

工藤 大希

第79回情報処理学会全国大会で学生奨励賞を受賞。また、学生ベンチャー企業BluelPUの代表としても活動、特許を2件取得し、本学にライセンス収入をもたらした。

李 爽

研究成果について国際会議で2件、国内で2件以上の論文発表をした。また、中国で開催された国際会議The 2017 International Conference on Progress in Informatics and Computing (PIC-2017)において、Best Oral Paper Awardを受賞。

関村 匠斗

第79回情報処理学会全国大会で学生奨励賞を受賞。また、研究成果について、国際会議、国内研究会で発表を行った。

### 総合政策学部

伊藤英之ゼミ3、4年生

小学校、中学校などで延べ9回の防災教育を実践してきた。

川原 直也

災害救援、社会福祉、青少年育成に関わるボランティア活動を精力的に行った。

### スケート部

濱田 芽生子

第72回国民体育大会「2017ながの銀嶺国体」冬季大会においてスピードスケート成年女子500mにおいて8位、成年女子2000mリレーにおいて5位。

### 水泳部

工藤 雅也

第68回東北地区大学体育大会において、男子100m背泳ぎで1位。

### さんさ踊り実行委員会

盛岡さんさ踊りに継続して参加し、最優秀賞を受賞。

### くまもとGINGA-NET参加学生

平成28年4月14日に発生した熊本地震の現地での災害支援などを行った。

### 岩手連合学生フォーミュラチームSIFT岩手県立大学メンバー

第15回全日本学生フォーミュラ大会に連合チームとして出場し、「ベスト電気回路設計賞」を受賞。

### Monolith 2017

ETロボコン2017東北地区大会のデベロッパー部門 プライマリークラスに出場し、総合優勝するとともに、全国大会へ出場した。

### Monolith G

ETロボコン2017のカレッジニア部門のビデオ審査で2位、チャンピオンシップ大会(全国大会)へ出場し、総合2位。

### 盛岡短期大学部 生活科学科

CAD検定受験者

「第69回建築CAD検定試験」3級を受験し、21名全員が優秀な成績で合格、「優秀団体賞」を受賞。

### 宮古短期大学部 経営情報学科

宮古短期大学部学生赤十字奉仕団

被災者支援等地域貢献活動に従事、「第6回東北みらい賞」を受賞。



懇談会の様子

## 岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@lwate-puPR】、Facebook、YouTube、LINEで情報提供を行なっています。ぜひ、ご覧ください。



広報誌へのご意見・ご感想や、広報に関する皆様のご意見を企画室までお寄せください。  
TEL.019-694-2005 FAX.019-694-2001  
E-mail:management@ml.iwate-pu.ac.jp